二〇〇三年度
立命館大学文学部卒業論文題目

哲学科　哲学専攻

パスカルの『賭』について　生田　純
フランス革命
——バークとペイン——　市村　駿
バタイユの人間　上田　哲平
反抗の倫理
肯定と否定の間　内田　亮
存在と重力　岡田　博充
無意識と自己理解
～ユング心理学における「無意識」概念からのアプローチ～　梶川　勝正
ドゥルーズ＝ガタリの機械と無意識について
——『アンチ・オイディプス』から　加藤進之介
ヤスパースに求める「死に至る病」の処方箋　加藤　文野
パルメニデスと古代ギリシア思想　木村　智帆
タオの倫理学　口野　良太
流れと思惟、存在について
——現象学的見地から——　佐藤　壮
ルサンチマンへの態度　辻浦　慎二
アリストテレスの倫理学　中村　公洋
ユートピアの可能性
——『否定弁証法』を中心に見るアドルノ哲学——　藤井　俊之
ヘラクレイトスの断編を検証　前西　宏樹
親鸞の時代認識と悪人との関係性　松谷　如雪
他者について
——レヴィナスの思想から——　松永　有加
自己と他者
——R・D・レインの対人関係論——　盛野アンナ
キルケゴール『あれか—これか』第一部
「美的実存者〝A〟」の検証　柳沼　周一
フランス・ベーコンの科学哲学的問題
——帰納法を中心に——　山本　高弘
哲学の祖・タレスについて　吉川　有美
プラトン
～古代ギリシア政治思想について～　吉野　大輔
『自由』についての考察
——シェリングの初期思想における「自由」について——　皆越　辰彦
ヘラクレイトスとパルメニデス
——生成と存在の対立——　吉田　幸子
「私」と「他者」の想像力
——想像力の働きについての美学的考察——　今井志穂子
他者理解としての科学的言説
～悪魔憑きとヒステリー～　佐伯　亮輔
E・フロムによる「衰退の症候群」より導き出される悪の本質についての考察　佐伯　渡
命はどのように考えられるか
——ベルクソン『創造的進化』を手びきに——　髙橋シズヱ
倫理の構造について
——いかにして道徳性は獲得されるのか——　井上　耕一
ニーチェと神の死　中川　兼次
『道徳の系譜』論
——キリスト教的態度としてのキリスト教批判——　堀江　環
初期ギリシア哲学研究
——ミレトス派について——　南　正紀
知識の基礎について
——ウィトゲンシュタイン『確実性の問題』から——　村上　正剛
レヴィナスにおける親子の他者性
——『全体性と無限』からの考察——　酒井　朋子
ベケットあるいは灰色の空
～ドゥルーズにおけるベケット論　小椋友香子
フロイトと僕　横井　岳
アリストテレス『ニコマコス倫理学』について
アリストテレスの幸福論　久保さち代
現存在の現における気分の根源性　舘澤　謙蔵
シラーの美的教育について　野口　昇子
純粋経験と十牛図　花村　節子
ソシュールの言語理論と比較して
アリストテレスの魂論について　東島　樹理
ニーチェにおける宗教的価値解釈
～ニヒリズムと宗教～　古田　敏洋
バウムガルテンの美学　菅　詩織

崇高の概念
ウィトゲンシュタインの断念したもの　光野　倫和

哲学科　心理学専攻

スポーツ競技場面における不安や緊張感の
パフォーマンスへの影響　荒川香那恵
――チァリーデング団体競技場面において――
誘導運動が同心円錯視に及ぼす影響　池田　航成
音楽の性質が気分変化に与える影響　石塚　亮子
ブレインイメージング研究に基づく脳トレー
ニングの効果　伊藤　一平
（小学5年生への介入）
小学生児童における音読・単純計算・書きによる
転移研究　井上　幸子
性役割観が成功恐怖に及ぼす影響と社会の認識に
ついて　井本　舞
目かくし時の床傾斜の知覚と重心のズレがそれに
与える影響　大澤　康夫
大学生の重要な他者との信頼関係と対人ストレス
コーピング　大西　航平
知覚判断における係留効果の考察　岡橋　美佳
耳撃証言の研究　岡本　融
線画・単語の記銘と再生におけるカテゴリ化に
及ぼす色の促進と妨害　小川　雅美
大学生の就職意識決定過程に関する研究
――体験談　学習の就職態度に与える影響について――　金子　繁太
文章読解における音読と黙読の比較
発達段階による分析　亀井　美衣
月経痛と母娘関係　蒲原　愛子
自己評価と友人に対する自己呈示スタイルとの
関係　岸本　高明
化粧における顕示欲求の影響　木戸　彩恵
――女子大学生および女子短期大学生の化粧意識と
その実際――
気晴らしの悪循環を招く要因　木船　貴恵
再認におけるRemember/Know判断と確信度判断
の相違について　木村　一貴
地図における空間認知について　木村　千尋
痴呆症状の改善へ向けた高齢者に対する認知リハ
ビリテーションの試み　久保ちひろ
学童クラブ事業における統合育成介助者の役割に
関する実証的検討　藏敷あやの
青年期における他者との関係の仕方と自己同一性
文章題における部分―全体の知識とメタ認知への
介入研究　小林　祥英
音楽を使ったブレインイメージング研究による前
頭前野の活性化　小松　佳枝
構内の歩きタバコ人数の軽減に関する行動分析的
研究　坂谷内啓子
――データ付きポスター提示の効果――　佐々木由有
うそつきに対する判断基準とうそが明らかになっ
た時の印象変化および心的反応について　新地　奈々

ビデオ撮影時における動体と静止体に対する時間
評価　神宮司　匠
自尊心と共感が援助行動および被援助者との心理
的距離に及ぼす影響　関口　潤
不協和低減における態度変化におけるディストラ
クションの効果　染田　秀吾
不協和低減における態度変容における
DISTRACTIONの効果　平良　昌
最小条件集団パラダイムにおける集団サイズ、負
担量およびコントロール幻想が及ぼす内集団ひ
いき　高野　浩明
感情誘導方法による気分一致効果　竹村　昌高
学校教育場面における書くことの有効性の検討
谷岡　充
社会的スキルとしてのスモールトークに関する探
索的研究　谷奥　裕一
幼児の共感性が向社会的行動予測に及ぼす効果
――母親と保育者による共感性評定の比較と検討――　谷口ひとみ
人格の二面性と文化的自己観の関連性　谷本　真一
幼児における新奇語の意味習得に関する研究
――対象物に対する着目点と認知概念の影響――　田村　仁美
日常行為で生じた音の記憶
――被験者実演課題と被験者イメージ課題の比較――　土屋　健一
児童の効力感を育む要因としての達成感イベント
の検討　常光真梨子
日常的題材におけるクリティカル・シンキングの

利用促進に関する研究　中　健太
――心理学専攻の大学生における専門領域からの転移の試み――
テレビが高齢者に与える影響　中濵　雄太
――特に主観的幸福感との関連について――
四コマ漫画から見る意外性とおもしろさの関係　西木　順哉
文章の記憶・理解を促進するためのグラフの効果　西本　尚代
気分一致効果における自己関連性　芳賀　徹
高齢者のイメージの変容に関する研究　長谷川久真
――ポジティブな情報を受動的、または能動的に与えた場合のイメージの変容の比較――
自尊心の個人差から見た失敗経験の心理　幅　栄治
意識的な忘却と情報源記憶　東陰地麻貴
統合失調症におけるステレオタイプの変容と維持　平塚　麻衣
公的及び私的状況における自己評価維持モデルの検討　藤居　亜妃
読みの方略の差が文章理解に及ぼす影響　藤田真梨子
――ブレインイメージング研究と記憶・理解研究――
自尊心と共感が援助行動と意識に及ぼす影響　堀井　悠加
自尊心と自己焦点化による決定後の偏愛　前原　有花
漫画への印象評価とその記銘――再認について

立命館大学文学部卒業論文題目

保持期間の長さが正確度・確信度パラドクスに与える影響　牧　美也子
――既知人物の同定を題材に――
絵画「製作者」の視覚探索特性および描写の検討　松尾　彰子
目撃証言における統合仮説と共存仮説の検討　緑川　直幸
卓球のパワードライブ技能獲得における行動的コーチングの効果　南　依里
説得場面における役割演技による態度変容　宮岡　学
～役割演技に対する即時強化が態度変容に及ぼす効果～　村上　裕美
大学生の友人関係と役割行動について　森脇　洋介
自尊心・自己焦点化と決定後の偏愛　野洲　貴子
正中線からの偏角の知覚　安田　真
援助要請をためらう心理について　山内　由以
大学生の「故郷」意識に影響する要因の検討　山本　麻衣
報酬分配行動に関する、状況要因についての検討　脇　あゆみ
重複の障害を持つ人における携帯電話のメール・写メールの使用　陸　敬曄
大学生の死生観と自殺に対する態度　祖父江義希
日常の防災意識に関する調査　藤原　直久
防災意識に関わる要因について
経路の構造と方向の知覚　川中　栄奈
血液型性格判断における選択的な情報使用　田中　祥恵
文章の難度における接続詞の有無の効果の差　野崎　祐介
利他行動における一般的信頼と宗教的倫理観に関する研究　堀江　滋樹
認知リハビリテーションによる学習療法の効果　石川眞理子
――高齢者の痴呆抑制と小学児童の学力向上の検討――
家族に対するリリーフケア　太田　順子
――ケア・システムの構築に向けた、終末期の家族及び遺族への援助についての調査――
仕事を持つことによる成人期の人格発達　小倉　直子
看護師の共感性と患者―看護師の心理的距離との関連　酒井　直子
――アルコールリハビリテーションプログラムにおける看護場面での検討――
音楽が学習課題に及ぼす促進効果の検討　水瀬　清重
在宅高齢者の楽しみ・生きがいにおける調査、研究　山田眞理子
――訪問看護場面でのＱＯＬ向上を考える――
不信想起場面における他者信頼性評定の変動　衣笠加江子
――信頼レベルと不信感の関連性の検討――
痴呆家族との死別に関する研究　原田美穂子
――ＦＢ記憶が悲嘆の回復に及ぼす影響について――
聴覚刺激の種類別による音韻ループへの影響

木田　史生
音楽の繰り返し聴取が快感情に及ぼす影響　沢井　五樹
新聞記事における見出し、識者コメント等が読者の原因・責任帰属に及ぼす影響　信本　英貴
風景画像の再現における概念としての色の影響　波多江結子
自己観察と結果の公示による行動介入　廣川　修一
大学生の無気力感について　南雲　拓三
ファーストステップ・ジョブグループの試み　上田　陽子
――行動分析のこころで考える「ひきこもり」援助――
人工内耳装用者と内耳感音性難聴者の語音（67-S語表）の異聴の検討　竹本　有里
音楽鑑賞による気分誘導が対人判断に及ぼす効果　前田　耕輔
プルフリッヒの振子の奥行感に及ぼす色相の影響　長田　麻世

文学科　日本文学専攻

竹内浩三　日常の言葉からの詩　浅田久美子
宮本百合子『伸子』論　池田　啓悟
小川未明童話における色彩語の研究　石園万里子
遺書
――遺された意志と言葉――　石田　真里
『うつほ物語』考
子どもの大人への成長と物語の構造　泉　甲太
浦島伝説の研究　今井智佳子
荒川洋治論
批判精神と詩の「現実」について　今川美津子
谷崎潤一郎『蓼喰ふ虫』論　岩田　磨美
「春琴抄」論　植村麻衣子
風姿花伝
「能と精神世界」　宇髙　竜成
小川未明『港に着いた黒んぼ』論　江藤　文香
『源氏物語』における「書」　小川　幸恵
近世における天神信仰の展開　沖本　薫
三島由紀夫「黒蜥蜴」について　梶原　文
井伏鱒二『山椒魚』論　片石智恵美
「万葉人」と「風」　勝野　潤
――「風」に託された想いを考える――
「満州通信」論　加藤　育世
岡崎京子「ヘルタースワルター」論　神岡　裕里
芥川龍之介「地獄変」論　川崎　純子
歌枕「弓」をめぐって　神原　章子
村上春樹『羊をめぐる冒険』論　桐原　真幸
「神神の微笑」論　国貞　文
『平家物語』論　倉井　貴志
『大鏡』における菅原道真像　栗　崇仁
庄司薫作品と比較する高野悦子『二十歳の原点』　栗栖　麻衣
森鷗外「空車」論　栗屋　慎次
『源氏物語』の「近江」　髙阪　真希
人柱と竜神信仰　合田　瑞希
「藪の中」論　齋藤　玲奈

一〇〇

「賀茂社」考　作田　文美
――『中外抄』『富家語』を中心に――
泉鏡花『夜叉ヶ池』の考察　佐藤　陽一
武者小路実篤『友情』論　椎谷　泉
西宮市の方言アスペクト調査　清水　洋平
若者のことば　下西めぐみ
――大学生の言語生活――
「万葉集」と『稲』　高木　久美
「雪国」論　髙橋亜由美
与謝野晶子『八つの夜』論　高橋　朋子
若者言葉の多様化について　田川　晴之
志賀直哉『小僧の神様』論　武田　奈美
――仙吉・Aの関係と附記について――
「花山院」論　竹村　知紘
『大鏡』における「空間」　竹本　怜子
北杜夫「さびしい王様」　立谷　あや
――失われたものを求めて――
寺山修司「あゝ、荒野」論　田中　優紀
『破戒』と『青年の環』　三浦いづみ
――文学を通して被差別部落問題を考える――
大学生の言語感覚について　築山　佳苗
『源氏物語』における明石一族研究　土屋あゆみ
『杜子春』論　土屋　純
「言挙げ」の研究　中島　寛文
――『万葉集』における用例を中心に――
三島由紀夫『宴のあと』論　中島　亮子
『深い河（ディープ・リバー）』に見る信仰　中田　陽一
江國香織『きらきらひかる』論　中田　有美

貧窮問答歌論　中鉢　優子
反歌における「鳥」について
『狭衣物語』論　中山　知美
遠州地方の念仏芸能　永田　藍子
～飛び念仏を中心に～
オウム事件に見る「悪」　七楽　由紀
――村上春樹『アンダーグラウンド』を通して――
「剣」の研究　野村　啓太
――和歌に見る刀剣思想――
石川啄木の悪癖と作品群との関係について　馬場　俊輔
梶井基次郎「檸檬」について　平岡　里津
他者認識に関する一考察　備後　一治
――「いのちの初夜」を巡って――
三島由紀夫「宴のあと」論　福井　梓
中島敦『山月記』論　福島　悠子
――聞き手「袁傪」の果たすべき役割――
「道成寺もの」の草双紙　福元　葉子
丹後地方における俳諧一枚摺　古山　嘉子
――糸井文庫所蔵の俳諧摺物を事例として――
国木田独歩『忘れえぬ人々』論　本野　薫
芥川龍之介「地獄変」論　増田雄一郎
平出修『逆徒』論　松岡　由紀
奈良絵本「ふくろふ」について　松田芙希子
夏目漱石『それから』について　三島　俊之
院政期文学における「皇統」に関する一考察　水田　郁乃
三島由紀夫『音楽』論　宮津　槙子

太宰治論　向井　修三
――『ダス・ゲマイネ』を中心に――
『古事記』における異界送りの意義　森田　研一
『万葉集』夢歌論　安田　絵美
現代における「武道言葉」の使用状況　矢田谷隆永
『山月記』論　籔下　裕之
『源氏物語』における「色」　山上　香代
『仮名手本忠臣蔵』の扮装の研究　山崎　知子
関西弁のイメージ調査　山下　友子
尾形亀之助論　山本　紗綾
芥川龍之介「河童論」　山本　麻葵
万葉集における言霊信仰　吉田　茜
泉鏡花『外科室』試論　禧美　智章
――高峰と夫人の物語――
台湾と日本との「あいさつ言葉」の比較　詹　朝雄
芥川龍之介の「蜃気楼」に関する考察　金　旼宣
――意識と無意識の解体と調和を中心に――
『道草』における漱石の精神的考察　今井　佐
『替花伝秘書』の研究　神原　知子
『源氏物語』における「生霊」　黒崎　真友
『女殺油地獄』論　杉山裕紀子
小川未明『赤い蝋燭と人魚』論　鈴木　絵美
昔話と「うた」　住友　美紀
『伊豆の踊子』論　立住こころ
新美南吉「ごん狐」　中務　園子
武者小路実篤『友情』考　橋本　直子
『源氏物語』における「猫」について　三村　梨恵
太宰治「魚服記」考　八原　加奈

新美南吉「ごんぎつね」　佐々木純子
――原作から考えるごんの死――
『枕草子』における歌枕　坂野　綾子
祐倫著『山頂湖面抄』考　稲垣　良代
――伝定家卿作「光源氏巻名歌」の問題を中心に――
太宰治『人間失格』における母の欠如　岡添　貴
太宰治論　岡田　明人
――『津軽』への回帰――
竹取物語研究　越田　愛子
万葉の黒髪　小原　明廣
――その文学的表現としての位相
万葉人と『夢』　近藤　隆久
泉鏡花『天守物語』論　新居　美穂
――生と死の境界――
『真珠夫人』菊池寛論　宮部　末子
近世における薬の広告　齊藤みどり
野間宏『さいころの空』論　山田登志雄
藤沢周平『三屋清左衛門残日録』論　油谷美智子
永井荷風「すみだ川」　国本　久枝
国木田独歩『春の鳥』論　野田　敦子
――感動の源――
語彙研究　森賀　千尋
～「不断」について～
三島由紀夫『豊饒の海』第一巻「春の雪」　大澤つや子
横光利一「蠅」　笠井　翼
――その方法と新感覚――
谷崎潤一郎『刺青』論　佐藤　亜紀

佐藤正午『ビコーズ』論　南部　広樹
——空転するディテール
日本語、英語、比較論　西村　臣士
幕末から明治における外来語に由来する語の表記の変遷　浅見　重治
～欧米を訪れた使節の日記から～
よい歌とはどういうものか　忠藤　克哉
「一千一秒物語」稲垣足穂　杉山由紀子
——模型と天体——
向田邦子の家族イメージ　西田　周平
「恩讐の彼方に」論　伊藤奈津子
菊池寛の人間主義について
森鴎外『寒山拾得』の中の異文化観　遠藤　康雄
『河海抄』の研究　小林　舞子
「花桜折る少将」にみられる物語の構造或いは短篇としての完結性　今野　百恵
『潮騒』論　佐々木俊英
遠藤周作初期作品におけるサディズムとマゾヒズム　竹内　香
春琴抄論　谷口　麻美
『落窪物語』論　森　律子
宮本輝『泥の河』を通して文学を考える　間瀬　麻美
有害コミック問題をふりかえる　稲田　美晴

文学科　中国文学専攻

中国第五世代映画監督の作品における文化革命　石王　純子
曹操の名誉挽回
——三国志の真の主人公は誰か——　石川千加代
律令制下での陰陽寮の役割　井上　美穂
台湾文化のなかの日本　居原田未来
中国古代の霊魂観　植田　亜樹
『捜神後記』と日本文学の比較　大島健太郎
——『桃花源』と『浦島太郎』を中心に——
近代中国における墨子思想　大瀧　弥生
魯迅の人間性　奥井　美絵
——日本人研究者から見た魯迅——
『神農本草経』にみえる神仙観　尾花由喜子
三国志平話と中国の転生物　加賀　沙織
呉濁流『無花果』から見る台湾人アイディンティティ　加藤　愛
中国の児童文学について　神戸真理子
龍と権威・権力との結びつき　北村美代子
——中国と日本の比較——
魯迅小説における郷土性　久慈　経明
京劇における男旦の衰退　澤　千尋
——中国の性意識が及ぼす影響——
天問の主題について　篠原絵美里
韓愈の「道」観念の変遷とその側面　下山　雄太
李靖の存在と虚像　墨　健一郎
金瓶梅に見る性愛文化　髙岸　佳代
～纏足のエロティシズム～
美人は国を滅ぼすか？　髙橋　幸香
——長恨歌の楊貴妃を中心に——

一〇二

中国文化における「異性装」について　田中　靖人
『西遊記』羅刹女について　田村菜生子
『史記』における「刺客列伝」の意義　辻　真理子
『老子』　中澤　和真
——「道」についての様々な解釈
三国志演義における大義について　中本　吾郎
史籍からみる馬超孟起を考察し、新たな馬超像の確立　中藪　希人
川劇について　西上加寿子
性悪説についての一考察　花亀　裕一
——性善説と比較して——
楊貴妃はどんな女性だったのか？　東　麻里恵
——その生涯とともに描く——
猪八戒の武器について　平塚　順良
中国における擦弦楽器の起源　古澤　伸弥
煙草と酒の文化、歴史　松原　洋介
～中国においての考察～
太平広記にみる虎　松本　洋子
～人虎伝を中心として～
蔣経国と李登輝からみる台湾の民主化と発展の軌跡　三角佐代子
三国時代における文学と儒教の関係　宮川　祐子
曹丕と曹植の後継者争いに関連して
孔子　三宅　美栄
——その波乱の生涯——
太公望について　宮田　和沙
『封神演義』に見える神仙の世界について　本貞　礼子

孫子と戦争　元永　道行
陰陽家について　山岡　照幸
～鄒衍の思想、陰陽五行説を中心として～
詩経に見られる古代農民の生活風景　山田　洋子
中国文学における樵父のイメージ　山村　暁子
「流星花園」の流行要因とその背景　遊佐　仁美
降魔変文と祈り　髙井　龍
『三国志演義』における武器について　岡本　淳子
「精神的勝利法」の認識から覗き込む中国　大村健太郎
左伝のなかの孫子兵法　江頭　典江
――その普遍性について――
顔真卿の生涯と書　河盛　みゑ
――何が人の心を捉えるか――
革命の先駆者、孫文の夢とその先見性　石井　明子
――文化の衝突から大同社会の実現をめざして――
中国女性は解放されたか　和田　尚子
覇王の組織論　石本　武伸
～項羽の経営者的資質～
書聖王羲之と蘭亭序の考察　坂口　博隆
台湾人　山本　美恵
～親日感情の本質を探り今後の日台関係を考える～
〝狂〟に関する一考察　有村　清一
中国文学における色彩について　佐藤　智英

文学科　英米文学専攻

Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter研究
『緋文字』におけるPearlの役割　青木　梢
Alice Walker, *The Color Purple* 研究
「犠牲者」から「闘う女性」への探求　阿閉いずみ
William Golding, *Lord of the Flies* 研究
――理性と蛮性　荒木　幸子
J. K. Rowling's *Harry Potter* Series: the maturity of Harry from an ordinary boy to a hero　石川麻利子
前置詞 at, in, on の時間を表す用法の研究　井出　重人
Herman Melville *Moby-Dick; or The Whale* 研究
――語り手イシュメルが見たエイハブの変貌――　猪田　淳子
There 構文　井村　祐子
Edgar Allan Poe, "William Wilson" 研究
――第二の Wilson の存在とその死の意味――　大石　香織
Tess of the d'Urbervilles 研究
――「清純な女」の定義について　大津　賢治
Toni Morrison *The Bluest Eye* 研究
――既成概念に浸る人々――　岡田　夏子
Toni Morrison, *The Bluest Eye* 研究
――白人規範の美の基準と価値感の中に生きる黒人たち――　岡田　優子
D. H. Lawrence, "The Fox" 研究
――バンフォード殺しは正当化されうるか――　小川　雅代
Edgar Allan Poe 研究
"The Due De L'omelette" においてオムレット公爵が地獄からの脱出に成功した要因　奥谷紗恵子
Dangling Man 研究
Joseph の孤独感　奥村　静香
Pride and Prejudice 研究
Pride and Prejudice と *Emma* におけるヒロインの覚醒　織田　和奈
John Steinbeck *Of Mice and Men* 研究
孤独・夢とLennie の役割について　笠江　真理
Toni Morrison *The Bluest Eye* 研究
――マリーゴールドの発芽を認めない土壌とは――　金元　太志
ドリアン・グレイ研究　神谷　翠子
L. M. Montgomery, *Anne of Green Gables* 研究
――アンに秘められた魅力――　神谷　典子
Saul Bellow's Artur Sammler: A Displaced Person of Insight in New York　川野　咲
The End of the Affair 研究　北川富美子
Toni Morrison *Sula* 研究
――SulaとNel, 生き方の比較――　木下　彩
Mary Shelley, *Frankenstein* 研究
フランケンシュタインの心理を探る　木下　裕香
Henry James' *The Portrait of a Lady*: The Character Development of Isabel Archer　木村　佳奈
Saul Bellow, *Dangling Man* 研究
――Joseph が自ら自由を放棄した理由――　木村　奈苗
前置詞 at を付加することによって動能構文を形成する他動詞　國野　太史
Great Expectations 研究
――Pip の自己確立と遺産見込みの関係――　久保早耶香

主題句と情報のなわばりとの関係　久保　貴典
Mrs. Dalloway 研究　倉田あゆみ
Jane Eyre 研究　斉藤　千晶
Tess of the D'Urbervilles 研究　斉藤　実穂
Charles Dickens, *Great Expectations* 研究　酒井　大成
——人との関わりを通じてのPipの成長——
Toni Morrison 研究　坂下　央朗
〜歪んだ社会の歪んだ人間〜
William Melvin Kelley, *dem* における白いアメリカの真実　櫻井　千恵
——白人側の困惑を通して暴かれるその姿——
Edgar Allan Poe 研究　佐々木祐聖
——ポウと女性、"Ligeia" を中心に
Wayson Choy, *The Jade Peony* 研究　佐野　泰代
——移民三世代に見られる葛藤
Toni Morrison *Beloved* 研究　新ヶ江るい
——Beloved の正体の解明——
Toni Morrison *Beloved* 研究　高瀬麻衣子
過去との和解とSetheの再生について
Saul Bellow's *The Bellarosa Connection* 研究　高橋　一教
The Color Purple における主人公Celieの自己成長について　高橋　陽介
Sister Carrie 研究　高森　啓子
——Carrie の欲望の変化と虚無感について——
Louisa May Alcott, *Little Women* 研究　武内　笑
〜家族像から探る『若草物語』の魅力〜
The Adventures of Augie March 研究　武本さおり
メタファーとしての動物の役割
Peter and Wendy 研究　田子真希江
——永遠の子供の光と影——
Alice Walker *The Color Purple* 研究　田中　佐苗
女らしさと男らしさ
The Picture of Dorian Gray 研究　佃　尚美
受動態を用いる理由　辻澤　和明
——話し手の意図するもの——
不定冠詞の性質と用法　寺鍛冶尚紀
William Golding の *Lord of the Flies* 研究　中竹　功
Jane Eyre 研究　中塚絵美子
——Janeの成長—内なる狂気とその克服について
Jane Austen, *Pride and Prejudice* 研究　中村　美喜
Their Eyes Were Watching God 論　長尾　俊宏
〜人間の心に潜む差別意識〜
Edgar Allan Poe, "The Fall of the House of Usher" 研究　仁井田麻衣子
The Heart of the Matter 研究　西野　智子
Samuel Beckett, 「*Waiting for Godot*」研究　西野　亮
Sister Carrie 研究　信久真由美
消費社会に呑まれたCarrieの人生
Anne of Green Gables 研究　服部　香菜
——日本人の見落としたAnneの世界——
前位形容詞の順番　服部　泰暁
The last one "the Matrix" was very interesting for me は非文か　橋本真奈美
Sister Carrie 研究　長谷川　綾
——人々を満足させない都会——
サリンジャーが描いた家族の物語　濵口　広志
〜シーモアに託したサリンジャーの想いとは〜
Joy Kogawa's *Obsan*: Naomi's Dilemma　早川由香里
As You Like It. 研究　早瀬　斉志
——Shakespeare 喜劇に見られる作劇の手法——
J. D. Salinger, *The Catcher in the Rye* 研究
——純粋を求めた少年——　原　梨恵
Kate Chopin 研究　榛澤可奈子
——短編に見られるショパンの女性像——
Saul Bellow, *The Victim* 研究　久田　淳也
——Leventhalの成長と「人間らしく」生きる事の意味——
"THE GOLD-BUG" 研究　日比絵理香
宝を探し当てた要因について
Paul Auster *The Locked Room* 研究　平井　友美
〜 Locked Room の核心にある自己の探求〜
Herman Melville *Moby-Dick* 研究　平井　里佳
——人間における自然の存在・善悪——
Edgar A. Poe, "The Black Cat" 研究　平田愛久美
——黒猫の復活と復讐
Amy Tan, *The Joy Luck Club* 研究　平野　春華
母と娘の隔たりと繋がり
A Streetcar Named Desire 研究　平野　秀和
——ブランチを狂気へと導いたもの——

一〇四

Edgar Allan Poe, “The Man that was used up” 研究　古川　裕輝
Anne Brontë, *Agnes Grey* 研究　佛性　京子
——Agnesが示す教訓
“The Picture of Dorian Gray” 研究　星野　瞳
——十九世紀末の男と女について——
Saul Bellow, *Seize the Day* 研究　前田　梓
絶望からの再生
Anne of Green Gables 研究　増尾真由子
——Anneの家庭と地域社会を巡って——
‘The Snows of Kilimanjaro’ 研究　増田　孝志
——作家 Harryのプライドと理想——
Flowers for Algernon 研究　松井　薫子
——知能はCharlieに幸せを与えたか
William Faulkner *The Sound and the Fury* 研究　松浦　玲子
——語り手四人のそれぞれの特徴と「時」との関連について——
William Golding, *Lord of the Flies* 研究　松本　真子
——「死」がもたらしたもの——
Oscar Wilde, *The Picture of Dorian Gray* に描かれた美と破滅　峯枝　季世
Wh 移動に関する研究　三宅　和宏
Saul Bellow, *Mr. Sammler's Planet* 研究　宮原　ゆき
人間の生命とその真実
Saul Bellow: *Herzog* 研究　宮本　恭子
——都市と自然の緑・水が導くバークシャーでの結末——

Kate Chopin *The Awakening* 研究　村瀬　沙織
——Ednaの目覚めと葛藤——
“The Gold Bug” 研究　森　加織理
Poe が考える「知性」とその効果
Dubliner 研究　森　香菜子
——James Joyceとアイルランド・ダブリン
“WILLIAM WILSON” 研究　森川　健司
ポウの人間性と文章構成について
Jonathan Swift, Gulliver's Travels PART IV論　森下　真実
John Steinbeck's *Of Mice and Men*研究　森脇とも子
——Lennie のもたらす恩恵——
The Awakening 研究　矢島　由美
——エドナの目覚め——
Dorothy Allison *Bastard Out of Carolina* 研究　八尋　弓依
——Bone の虐待からの脱却と、人間性の回復
Edgar Allan Poe　山下　将司
——“Bon-Bon” に見る人間の長所と短所について——
Great Expectations 研究　山田　敦之
Theodore Dreiser *Sister Carrie* 研究　山中由香里
——Carrieと女優の関係について
The Moon and Sixpence 研究　山本　雅彦
——作品を通して見るモームの芸術観・人生観について——
William Golding, *Lord of the Flies* 研究　荒木　俊邦
登場人物の他くの依存について
If 節内におけるwillについて　中田　和宏

Ralph Ellison, *Invisible Man* 研究　猪岡　春菜
——主人公の視線を追って——
Jane Austen, *Pride and Prejudice* 研究　井原由紀子
Scrooge の人間性　大園　祥子
——Dickens の生涯から
冠詞の定性について　岸本　幸子
Nathaniel Hawthorne, *The Scarlet Letter* 研究　小林　宣章
——「A」の変遷——
Jonathan Swift Galliver's travels について　駒形　広樹
Lewis Carroll, *Alice's Adventures in Wonderland* 研究　白砂　友希
——アリスの成長——
The Awakening 研究—女性解放の文学　瀬川　真実
——エドナの解放——
Pride and Prejudice 研究　塲本美穂子
Edgar Allan Poe, “The Purloined Letter” 研究　前谷　理恵
E. M. Forster, *A Room with a View* 研究　森　ゆかり
——Lucyを取り巻く人間関係と精神的成長——
Charlotte Brontë 研究　吉田　聡美
——Jane Eyreの女性像——
Jane Austen, *Pride and Prejudice*　吉成　絢子
女主人公エリザベスの成長
The Sacagawea Legend　海野　史江
——How the American Heroine Has Been Created——
Melody Carlson's *Diary of a Teenage Girl:*

Diary Keeping for Self-Discovery　中島　光恵
Bernard Malamud, *The Assistant* 研究　川岸　純子
——assistantは誰か——
Tess of The D'Urbervilles 研究　長尾　和子
The Prototype of the Resultative Construction　松井夏津紀
F. Scott Fitzgerald, *The Great Gatsby* 研究　増地　幸子
——語り手NickのGatsbyに対する評価の変遷——
Dorian Grey 研究　秋山　律
——作品中の倫理性について
Chris Ware, Jimmy Corrigan: The Smartest Kid On Earth 研究　猪岡　拓郎
——コミックにおけるヒーローの死について
Where Angels Fear to Tread 研究　大杉　雅之
——作品における人間関係と精神的変化
「武器よさらば」研究　安井　剛
——ヘミングウェィと戦争——
Lord of the Flies 研究　岸本真規子
——秩序のない社会で少年たちはどう変わっていくのか——
The Scarlet Letter に描かれる光とカゲ　小西　淳花
——愛と狂気のヤヌス——
The Rainbow 研究　西田　学
——闇を通して見る理想の夫婦関係——
J. D. SALINGER, *The Catcher in the Rye*　木村　聖
——サリンジャーは「ライ麦畑のキャッチャー」になれたのか
"Lady Chatterley's Lover" 研究　浅井　崇彦
——階級社会と女性像——
The Catcher in the Rye 研究　小川　涼子
——Holden 考——
Kazuo Ishiguro *The Remains of the Day* 研究　飯高　亜希
Stevensの考える「偉大さ」と「品格」を中心に
The Prince and the Pauper 研究　土居亜希子
——苦難の末に「人間性」を見出していく人物のさま
～視点と現実の転換による皮肉～
英語の成立　西野　修平
HAVE 構文について　麻生　素子
——そのプロトタイプを求めて
否定文での否定の領域　平石　義人
Moon Palace 研究　大橋あゆみ
「人生のはじまり」の物語

史学科　日本史学専攻

鎌倉期武士社会における女性　安藤奈穂子
——女性をかなめとする親族結合——
大和国郡山城に関する一考察　飯原　芳和
——近世城郭への変貌——
縄文時代晩期の土製耳飾り　池田　知子
——長野市宮崎遺跡出土資料を中心に——
身体と心性　石丸　尚志
中世の日記にみる家職の伝承　井関奈都子
——「日記の家」の事例分析を中心に——
上水を通して見た江戸　伊藤　紗織
花岡事件の戦後処理　伊藤　心平
庶民生活における茶文化の一考察　伊藤　陽子
——歳事・通過儀礼を中心に——
呪符木簡の集成と分析　井上　彩子
～出土資料と民俗例の比較検討～
応仁の乱における在地民衆の対応策　岩中　英明
大和国の事例について
近畿地方における器財埴輪の変遷とその評価　宇野　隆志
戦時下の児童文学　大竹　希望
西日本における墨書土器の様相　大八木美和
天保期の印旛沼の開拓　岡田　亮平
——二宮尊徳を主点において——
戦国大名の権力構造について　沖　真裕子
——毛利氏を中心に——
戦国期における公家の動向　越智　史郎
——近衛家を中心に——
「協力内閣」運動の多様性及びその影響力について　柏　英明
八戸順叔事件について　片山　明
——事件当事者・八戸喜三郎の海外における活動と交友関係を中心に——
近世江戸における稲荷信仰の諸相　勝又　艶子
福沢諭吉という思想家　加藤　雅之
『日本書紀』編纂と完成後　要　充代
——講書を中心に——

南北朝内乱期の九州について　神屋　千尋
院・摂関家における四天王寺参詣の意味
——鳥羽院と藤原頼長の例を中心に——　亀井　隆幸
和泉国日根野荘の民衆　楠木麻奈津
伊東忠太について　窪田　幸代
皇親への賜姓　窪田　智子
北越戊辰戦争における長岡藩　小池真衣子
公民教育に関する一考察　小林　隆則
——女子公民科を中心に——
近世日本人の朝鮮観に関する一考察　近藤　広幸
八世紀における新羅観にいて　酒井　健治
～新羅征討計画を中心に～
結髪の魅力と合理性　坂本　珠希
～中世から近世への転換～
古代宮都における藤原京の意義　坂本　真央
——藤原京が残したものとは——
明治期の外国人居留地における華僑について　櫻井　亮
日本のマンドリン　佐田　悟志
院政期の寺社強訴　佐藤　加奈
——その対象と傾向——
膨脹する思考　佐藤太久麿
——明治前中期において——
大衆文学における新選組像の変遷　佐藤　実希
近代日朝関係と閔妃政権　佐野　直子
——閔妃殺害事件を中心に——
加賀一向一揆について　城光寺美穂
——「郡」と「組」を中心に——
日本占領下シンガポールにおける日本語教育政策　神野有希子
カモ氏の研究　杉井　貞子
——賀茂説話を中心に——
十五世紀撰銭令の発布の背景　高木　翼
——明銭忌避の問題を中心に——
仰木遺跡出土須恵器の分析と考察　髙木まゆこ
武士道の変遷に関する考察　髙橋新太郎
——近世の理想像とその実像——
武器としての日本刀　瀧澤　朋未
鎌倉期における戦争の実態　竹内　文香
——軍事編制と戦闘形態——
昭和二十年代前半における公務員の労働基本権を
めぐる政府と官公庁労組の動向　竹内　拓雄
Reasons behind the Japan expedition　竹村　知子
——American Frontier and Capitalism——
窖窯焼成埴輪の生産・供給体制とその背景　田中　智子
——新地窯の検討から——
近世におけるイレズミについて　田邉　綾
古代東北における蝦夷支配について　谷村　佳輝
奥羽越列藩同盟下における新発田藩と桂家の関係　俵山　渉
～「桂家史料」を中心に～
新選組の思想　塚田　勇太
——近藤勇・伊東甲子太郎を中心として——
桟敷の発生と中世的展開　津田剣太郎
言説にみる近世・近代の男色　爪　鈴代
近世農村における農鍛冶について　鶴見　直久
——組織とその周縁——
帰国後の大黒屋光太夫　冨永　睦美
中世の武士像と現代における認識の差異に関する
考察　中川　景太
日本の対ユダヤ人政策　中沢　誠
石門心学と都市民衆　中西　量子
——石田梅岩を中心に——
中世公家の家政機構　中村　佳奈
八～九世紀初期の斎宮　中村ひとみ
——大中臣清麻呂の動向・役割に注目して——
靖国神社首相公式参拝問題　長浦　貴幸
～アジア協調への展望
近世後期における奥羽からの伊勢参宮　長島　研
——道中記の分析から——
西日本における縄文時代後晩期の墓制　長町　亮佑
竪穴式石槨を通して見た古墳時代成立期における
中央と地方　奈良　拓弥
武術的身体と近代化　南部めぐみ
中世最末期における公武関係　西原　寛貴
——本能寺の変から山崎合戦へ——
明治期の大赦・恩赦について　延時　貴寿
——大日本帝国憲法発布時の大赦を中心に——
化粧の歴史と化粧する理由に関する一考察　長谷川由圭
足利氏による源氏嫡宗権の主張と足利幕府の成立
——南北朝期における武士の棟梁観——　花田　卓司
俊乗房重源の勧進と作善　林　友子
～播磨別所を中心に～

喜多川歌麿　原　明日香
伊波普猷の思想　原澤　綾
イエズス会巡察師A・ヴァリニャーノの日本理解　張間　仁
伊達政宗の文化の特質
——連歌の場などを中心に——　福田慎太郎
明治期における国産ピアノの誕生　福田みや子
軍とスポーツの関係について
——「野球害毒論争」を中心に——　藤井　大介
足利義尚政権について　兵法　茜
中世の子ども
～寺院を中心に～　前川　彩美
江戸という空間における遊女　増田　綾子
政党内閣の終焉と元老西園寺公望　松浦　潤
律令国家形成期の政策とその展開
——天智・天武期の氏族政策を中心に——　松岡ゆかり
戦国大名と大名領国
～今川氏、毛利氏において～　松村　裕樹
近世・近代瀬戸・美濃窯業の復元
～陶磁器窯の変遷を中心として～　水野　裕作
白河院政期仁和寺御室の寺院支配　光谷　佳恵
中世声聞師の労役と身分　宮武　宏憲
近世後期の京都における朝廷と民衆
——天明七年御所千度参りを中心に——　森　万基子
沖縄音楽とは何か　森　未来
若狭地方における土器製塩　森下　智恵
中世瀬戸内海における海城の研究　横田　悠紀
八世紀の大宰府　吉岡　直人
——境界管理に注目して——　鷲野　浩久
名所図会の考察
～都名所図会を中心として　金　宝賢
剥片尖頭器の系譜
——九州と朝鮮半島との比較——　岡　美里
琉球芸能「京太郎（チョンダラー）」の歴史的変遷に関する一考察　伊藤　絵理
創作絵本の誕生にみる西洋文化の影響とその背景　増田　麗香
中岡慎太郎の周旋活動
——三条実美と岩倉具視の提携について——　鳥井　俊祐
ツーリズムの大衆化と「留学」　岩井　誠
大久保利通の士族授産計画
～国営安積開墾における久留米藩士族の動向を中心に～　手塚　亜季
戦時下の池田成彬の動き　富田剛太郎
近世伊丹酒造業と町組織の関わりについて
——中御門宗忠・藤原頼長にみる——　中井　智草
平安末期上流貴族の読書傾向とその背景
「顔を塞ぐ」行為の意味　西野生和乃
——中世説話集等に見る——
豊臣政権の構造について　西村　美希
——豊臣秀長を中心に——
昭和初期小作争議の一考察　安友　義人
——徳島県阿波郡久勝村大字久千田を事例として——
戦国時代の雑兵について　山下　陽子
近代日本と西園寺公望　加藤　雅之
鴨川の境界性と中世における変質　片山　祐貴

一〇八

弥生玉作の展開
～北部近畿を中心に～　上田　徳啓
河内守護畠山氏について　岡山　哲雄
北越戊辰戦争と松宮雄次郎
——会津藩と与板藩の間で——　片山　晴彦
大正期の洋装について
——羽仁もと子の洋装観を中心に——　佐藤　朋子
近世武士の思想
——赤穂事件を例にとって——　嶋田　高弘
「家族国家」観
——女子教育からの性別役割分業考察——　田中佳代子
和鏡の変遷と文化　田辺ゆり子
後鳥羽上皇の政治課題
——承久年中の修法、熊野・賀茂社との関係——　谷　昇
行基登用に至る思想背景
——小乗から大乗へ——　納所　真紀
香道成立に関する一考察　橋本真奈美
——中世における沈香一木炷の普及について——
中世前期　新見荘における商業　廣野　直哉
——非農業民と市場の性格、都市的評価との関連で——
三浦銕太郎小論　松田　建
——その「反帝国主義論」と国策研究参画——
リサイクル工製品について　丸山　明男
縄文時代の土器片利用
御斎会・後七日御修法と天皇　山下　信子
近代の京都と皇室　山崎真理子
——大正大礼を中心に——
陶磁器組成からみた中・近世鉱山町の実像

平山　裕之
——石見銀山遺跡・石銀集落跡の考察から——　河井　弘樹
日本の初期映画について
～その衝撃と受容～
戦後における日本人の価値観の変遷とプロレスの関係について　木下　博文
幕府による第一次蝦夷地直轄について　桜井　共生
中世貨幣の研究史の課題　髙木　俊文
大和の古墳時代終末期における古墳の秩序の背景について考える　谷室　尚子
——石室・石棺を中心として——
国際情勢より見た「大東亜共栄圏」構想登場の背景　林　哲也
近世後期における河童伝承の考察　吉田　仁美
——九州地方を中心として——
光仁・桓武期の皇統交代についての考察　淺野　真一
豊臣政権の政治機構　小澤　一也
幕末政治研究　坂田　真朗
——長州藩政治における一考察——
戦国大名上杉氏の領国経営　曽田　恵子
——揚北衆の起請文を中心に——
浮世絵が印象派絵画に与えた影響とその限界　玉渕あや乃
商工官僚美濃部洋次の動向　寺﨑　雅人
日本におけるイエズス会の軍事行動の諸問題について　長谷川圭一朗
近世の女性　福島　春菜
——縁切寺を事例として——
近代日本の教育内容政策　河崎　孝志
音楽媒体の進化に依る音楽受容の変化　水野　陽子

史学科　東洋史学専攻

ドイモイとベトナムの女性　荒木真理子
宋代の商業について　伊藤　弘陽
章炳麟の中華民国構想　井藤　大輔
清末期におけるアメリカ華僑と革命　井上相太朗
孫文の革命と日本　今村　葉子
五星占中の木星占にみる中国古代の占星術について　鵜林　伸也
唐・宋代における九宮貴神　浦田　衣里
～唐・宋代の九宮貴神祭祀と、それに関する議論を中心に～
西周右者考　大羽　千恵
中越戦争　門田　壮史
「殿試」について　可兒　亮子
晏陽初の教育運動とその思想　吉良　浩典
——農村教育を中心に
洋務運動期の紡績業　日下　和繁
上海機器織布局について
川喜多長政と中華電影　国本　圭孝
中国社会と秘密結社　小林　千尋
——会党から幇会へ——
則天武后と内道場　小山泰恵子
元代の駅伝制度　後藤　泉美
玄宗期における宰相　坂爪　亮
顔真卿と書　末藤　潤子
光緒新政における商部について　杉本　幸久
朝鮮統一の展望　竹綱　敦子
雑誌『辺鐸』『天山』について　田島　大輔
吐魯番盆地における古代中国人の他界観について　田中知佐子
西太后の人物像　永添　恵
曹魏と和の関係について　西野　広亮
儒家思想を根幹とした明代の弓術　林　江里
宋代における民間宗教　東　さくら
地方神の成立過程から中央神への発展過程を研究し、当時民間の信仰対象の特色を探る
『墨子』説話諸篇序論　平林　緑萌
古代中国人の自然観と神仙思想からみる不老不死願望　福田　紗知
中国の青磁　細川　純平
——宋代を中心に——
明代「土木の変」前・後の辺防戦力について　升　怜人
前漢代秦観　増田　美央
——『史記』・『漢書』と『塩鉄論』文学・賢良の秦に関する言説の比較から——
戊戌変法と光緒帝　光嶋英理子
中国音楽史の変遷　宮本　智江
～中国近代における西洋音楽との関わり～
香港返還における英中交渉　三好　理絵
日本人の目から見た上海　村田　真紀
曹操政権論　村本　大輔

匈奴における乳製品の利用について　室　和孝
——酪と酥を中心に——
械闘と遊民　安田　峰俊
～清代閩南地域を中心として～
欧陽脩の復古について　安野　敦洋
宋代の家庭教育　雪上　香織
——母親の役割を中心に——
田家荊「計算ミス」の責任者と田家荊の性格について　吉田　大悟
李鴻章の海防論と北洋艦隊　吉村　祐志
呉越政権の一考察　佐藤幸大朗
～中原王朝、呉・南唐との外交関係を中心に
ソグド人の東方活動について　深尾　伸也
首都健康　小林　新
——水利史を中心に——
南宋成立期における民間武装勢力について　吉村　健
～自衛組織・流賊を中心に～
二十一ヶ条要求と反日運動　是永　桂一
烏龍茶について　森　菜丶
宋慶齢の女性解放に関する思想と行動　泉　晴美
『瓶史』研究序説　金山　穹子
——袁宏道と文人思想
唐代の三彩に関する諸問題の再検討　久保　育子
——明器を中心として——
宋代における生産力の拡大と都市の発展　中野　興彦
袁世凱　池辺淳之助
～彼が中国社会に与えた影響～
貴族制萌芽期　新宅　浩
孫呉政権について　平野　修平
李斯の議論に見える郡県制　山田芳祥子
ポル・ポト政権　草野　薫子
——大虐殺は何故起こり得たのか
開封—一一二七年　河内　秀郎
環境と疫病
南京国民政府時期の教育政策　竹下　徹
『算数書』から『九章算術』へ

史学科　西洋史学専攻

芸術家とパトロン　朝比奈いずみ
分岐する進歩の階段　足立　浩貴
——進化論史におけるH・G・ウェルズの位置付け——
21世紀アメリカの世界戦略　池内　孝行
～古い戦争から新しい戦争へ～
近世アイルランド・イギリス関係史　石井　昌樹
——アイルランドで何が行われ何を得たのか——
マキアヴェッリの文学作品における「ヴィルトゥ」と「フォルトゥナ」　和泉　志郎
シュルツ・ウォルトの世界観とキャラクタービジネス　井上恵津子
多民族国家アメリカにおける言語問題　氏田　実希
～二言語教育のあり方～
ゴシック教会堂　岡田　明子
——サン・ドニにおける教会堂の成立——
ユダヤ民族のイメージの変遷とマイノリティの形成　風間　雄介

一一〇

ウマイヤ朝期イスラーム・スペインのキリスト教　粕谷　祐次
プロティノス哲学における悪の存在と意義について　加藤　高嗣
現代におけるレッセフェールの再起　北　雄介
——過去の現象と同一視することができるのか?——
クルド問題　北岡　良仁
——トルコ国内を中心に——
イギリスにおける若者文化　北野　博之
中世イタリア商人の姿　木村　真紀
中世イスラーム治下のイベリア半島における諸文化と共存　久杉　孝紀
第四回十字軍　小島　有時
コンスタンティノープルの陥落
ヴィクトリア時代の女性像　古西　瑠美
古代ローマ起源におけるアエネアス伝説について
の一考察　小濱　健介
ドイツ近現代史における「逸脱」としての移民と「正常」としてのドイツ・ナショナリティ　後藤　和広
——西ドイツ・ナショナリティを中心に——
Scottishnessの誕生　佐々木弥幸
——中世のスコットランド王国統一の過程から——
「アラビアのロレンス」と中東　佐藤　典子
——19世紀～20世紀初頭のイギリスにおけるアラブ観——
2001・9・11アメリカ同時多発テロについて　澤田　安里
——背景とその後——
近世初期におけるカーニバルの変容の流れ　白取　千恵

中世末期フィレンツェのコムーネと慈善　神羽　登
——オルサンミケーレ兄弟会の活動をとおして——
時代とファッション　杉本　恵美
アメリカにおける女性世帯主家族の増加と貧困　須藤　留衣
ドイツの政治家と戦争責任認識　瀬川　明宏
騎士道の受容　田原　亜紀
13世紀世界システムの再評価
近代世界システム必然論を問う　内藤　順子
文学作品にみる帝国主義時代における帝国主義と
オリエンタリズム　中村　文
アメリカ合衆国における住宅の変化とその社会的
背景　西田　友紀
緑の運動　額田　百合
モードにおける脚の存在意義　野田　真敬
マヤ文明の神秘と興亡　萩原　英貴
カロリング期の民衆教化と裁判制度　葉田　真也
——徳と法——
9・11事件以降に見るアメリカの独善性　堀田　真心
——愛国主義と個人主義の観点からアメリカの文化的
伝統を考える——
ワイマル共和国におけるナチスの台頭　馬壁　正浩
——ナチスは特殊ドイツ的現象か？——
1931年万国植民地博覧会のパヴィリオン
近代人類学の成果　馬籠　康之
中世イタリアの「家」　又川　和枝
アヴァンギャルドによる芸術表現の転換と新しい
現実　松本奈々恵

メディアからみたアメリカのプロパガンダ政策
水谷　真憲
ヴァイキングの実態と周辺文化への影響について
森　伸雄
ガウディ3つの魅力　山尾　朋子
——注目を浴びる理由——
ヒップホップから見るアメリカ黒人社会　横山　耕介
～伝説のラッパー、トゥパック・アマル・シャクール～
アイルランド修道院とケルト・キリスト教
杉本　慈子
古代末期・初期中世ヨーロッパにおける聖人崇拝
その多様性と性質について　高木　望
ヴェネツィアにおける宗教の特異性　塩出かおり
模倣を通してみる近代の始まり　大島　悟
1600年を中心とする自然の擬人化と人間の客体化
敗戦後におけるドイツ国民の希望の原理と精神的
な傷からの自己回復について　佐伯　紀子
～ドイツにおける「過去の克服」の実相～
古代ローマ帝国における市民の地位と役割
平　健太郎
近代日本の自然観の変容とその問題点　吉川　光司
アルザス・アイデンティティからの考察　奥野奈緒美
——複合アイデンティティの可能性——
ディートリッヒの「脚」　井上　克子
——ワイマール文化のイコン、あるいは崩壊のメルクマール
スパルタの国制と改変　髙橋　資將
衰退は突然か過去からの集積か
甘いもの文化と女性の関係　久保長由香

「ブラック・ユーモア」小説に見るアメリカ対抗
文化　田島　辰治
国際歴史教科書改善に見る共通の歴史認識の可能
性　平井　克彦
シンプル　イズ　ベスト　香川奈美江
ココ・シャネルと現代女性の在り方
フランス象徴派文学の再評価　仲本　和史
ナチスにおけるプロパガンダとメディアのかかわり
について　狩野　史訓

地理学科　地理学専攻

CVMによる河川の価値評価と距離減衰性の考察
——桂川と鴨川における事例分析——
青野　純也
京都市営住宅における居住者の特性　足利　高志
草木湖の水収支　麻生　将
農山村におけるグリーン・ツーリズムによる地域
活性化　天野　洋
——熊本県阿蘇郡小国町の事例——
郊外型大規模小売店立地による徳山商店街の変容
天野　由勝
名古屋市における日本車（トヨタ・日産・ホンダ）
ディラーの立地展開と地域関係　天本　晃嗣
諸営業形態からみた明治期以降における旧宿場町の
変容　一色　範子
——旧京街道枚方宿の岡村を例として——
京都市在来型商店街の存続理由　石田　絵美

——出町商店街を例として——
福井市域の商業地域の変容とＴＭＯの役割　石塚　星斗
ＧＩＳを用いた京都市におけるコンビニエンス
ストアの立地分析　伊東　悠孝
城崎温泉における観光客の観光行動と意識の変化　今西　敏之
野洲川下流域における地形変化と遺跡立地　梅津　洋輔
——滋賀県野洲郡中主町域を事例として——
都市域における長期的気候変動　梅津　仁奈
～大阪を事例に～
京都のイメージとその背景　大川　充晃
温泉地における宿泊施設の立地展開と質的変化
～神奈川県箱根町を事例として～　大澤　弘
横浜市中区山手町における西洋館集積地区の変容
と現状　大野由紀子
京都三条商店街における店舗立地と周辺地域の関
連性　岡　健太郎
——小単位地区データに基づく地域構造の分析——
山科駅前地区市街地再開発事業　岡本久美子
——活気・魅力あるまちづくりの一事例——
兵庫県川西市における大規模住宅団地開発と今後
の課題　小原　政人
バンクーバーにおける日系理容業の展開
——第2次世界大戦後を中心に——　柿原真理子
西陣における都市景観と色彩　金谷祐実子
改定入管法施行10年が経過した日系人労働者の実態
——群馬県太田市を事例に——　神尾　正樹
伊勢市おはらい町における観光振興策としての町
並み保全　川上　舞香
京都市における公共交通活性化への構想　河津　亮平
情報化社会における倉庫機能の空間的変容
——愛知県小牧市を中心として——　川原　千裕
患者の受療行動に関する空間的分析　菊池由季子
——滋賀県草津市Ａ眼科の事例——
奈良県吉野郡十津川村における山村の活性化
北野　朱美
ニュータウン開発地域における梨栽培の動向
——千葉県白井市を事例にして——　久保田慈人
石川海岸の海浜変動における諸要因　黒川　瑞枝
梅田における商業構造の変化　小橋　佳奈
リゾート施設の集客圏と再集客力　小林　保博
～愛知県・ラグーナ蒲郡を事例として～
都市間競争に伴う中心商業地の構造変化　小林　亮
——神奈川県厚木市・海老名市を例に——
仙台市における地震災害危険性の「防災診断地図」
——南光台・鶴ヶ谷を中心に——　斎藤　巌
児童通学路の環境変化による危険への考察
佐藤　誠
大正期・二条駅周辺における木材業者の分布
佐藤　喜則
都市域における子どものあそび行動　里山今日子
阪神・淡路大震災以後における復旧・復興の様相
——神戸市東灘区及び長田区の事例——　澤居　智
大阪市船場地区における卸売業の立地変化
～南久宝寺問屋街を例として～　沢田　拡志
観光地選択における地域的差異　柴田　太一
～北海道・道央地域を事例に～
駅周辺における自転車放置と駐輪場整備
～京都市の事例～　柴田　大輔
京都市民がもつ「京都」のイメージ　柴山　風野
——領域性と場所をめぐる問題
観光地駅前商店街の変化について　渋谷　慶典
～京都市竜安寺道駅前商店街を事例として～
有馬温泉の温泉観光地としての変化　嶋田　健
棚田オーナー制度に関する比較検討　島田　唯人
——京都府北部を事例として——
大型ショッピングセンター立地による買物行動の
変化　白石　恭子
——愛媛県新居浜市を中心にして——
歴史的町並みのある地域におけるまちづくりに関
する研究　鈴木　準
——ならまちの空間変容をもとに——
茨城県における高速バス路線網の発達　髙野　真二
豊中市上新田における混住化の現状　田中　温子
——自治会組織を中心に——
京都府における茶産業の特性と展開について
——京都府と鹿児島県の比較研究——　田中　享子
琵琶湖漁業実績の変遷　田中　京平
——外来魚問題とのかかわり——
小規模野菜産地の形成からみた栽培展開と工夫
田中　卓
——大阪府阪南市鳥取中地区タマネギ栽培を事例に——

伝統的建造物群保存地区の土地利用　土田　愛
——京都市の保存地区を事例として——
新宗教の「まつり」における聖地の場所イメージ　中森　陽介
——大本を事例に——
京都府宇治田原町における茶流通の地域的性格　西山　泰輔
——茶問屋の仕入れ形態を中心に——
福祉対策から見た観光都市京都の都市整備　布川紗也子
——東山区を中心として——
居住環境のアフォーダンス　能登　英貴
——名古屋市久屋大通公園の野宿生活者を対象として——
露天商の行動パターン　萩谷　光咲
——大阪府・京都府・奈良県の事例を中心として——
千里ニュータウンの開発と今後の展望　橋本　剛
地方観光地における実態　橋本　直樹
——大分県湯布院町を事例として——
京都市における高齢化の特徴　畑　奈緒子
東濃地域の陶磁器業　花澤　晃宏
～地区比範～
関西文化学術研究都市における住宅地開発の変容
——精華・西木津地区を事例として——　東野　圭佑
大阪市中心市街地におけるホテルの立地展開　廣政　雄一
都市外縁部に位置する市街化区域内農地の減少過程　藤澤　徳久
～京都市伏見区久我・羽束師を事例にして～
郊外における土地利用の変化　舟坂奈津江
～吹田市地下鉄江坂駅周辺地域を事例に～

立命館大学文学部卒業論文題目

京都市におけるガソリンスタンドの立地　升田　喜子
丘陵地に発生する村落空間の境界　松浦　増史
防災福祉コミュニティの構築におけるまちづくり
——京都市東山区六原学区を例として——　松下　光博
大都市における地震防災に関する一考察　松村　仁
——神戸市を事例として——
京阪神地域における百貨店の立地と店舗特性　松元　一磨
大阪市大正区における沖縄関連店舗の立地展開　真鍋　一弘
西陣地区における町並景観と都市的変容　三浦麻理子
——街路パターン別に見たお町内の比較——
京都市北西部における山林の土地利用変化　皆川　裕樹
部落産業の成立に関わる労働力の移動　南　紀史
——大阪府南部の製線業を例にして——
佐賀平野における水利施設の空間的展開　峯　涼輔
高知県東部における公共交通利用の現状と利用者の意識　向井　俊博
大都市圏縁辺地域の都市の特性に関する一考察
——滋賀県彦根市・長浜市を事例にして——　森　智史
昭和初期における女性の就業構造　森　千草
——大阪市周辺の女中を中心に——
平安京における地下水環境とその変化について　森　雄仁
岡山県・久米南町における市町村合併案に関する一考察　山口　典宏
滋賀県志賀町栗原における野生ニホンザルと住民との関わり　山崎　薫
山口県における観光行動・観光地の分析からみた観光現象の空間的展開　吉木　孝文
——夏季の観光客に着目して——
近世期の江戸における芸能興行地の変遷
——歌舞伎の興行地を中心に——　吉田　悠輝
1年を通じての公園利用に関する考察　吉野　朋子
——箕面市と千里ニュータウンを事例として——
茨木市における公共図書館の最適立地問題
——立地—配分モデルによる分析——　渡辺　雅之
京都市都心部における駐車場の立地展開　渡辺　康彦
観光地の発展とイメージとの関係性　和田　麻琴
——兵庫県宝塚市を事例に——
阪神・淡路大震災と社会関係について　真田　正幸
過疎地域における地域振興の実態分析　城市　祐也
——島根県美濃郡匹見町の場合——
道路運送法改正に伴う移動手段を確保するための愛知県刈谷市の取り組み　古田　朝裕
名所図会類にみる近世・宇治川の河川利用　森田　美晴
中国に進出する日本企業の立地展開　澤海　久志
京都市の中高層住宅の立地とその特性　梅田　健二
——北区・下京区・南区を例として——
愛知県における「地域保健医療計画」の策定と医療提供体制の変化　尾崎　利徳

美術館における広報の空間的分布　武田　亮子
——京都市を事例に——
伝承・民話の分布とその特徴　田中　哲文
——狐にまつわる文献・事象を例として——
京都市伏見区・下京区におけるコンビニエンス
ストアの立地展開　谷口　能成
京都市西陣における京町家の残存状況と再生利用
野上　朋
京都を訪れる外国人観光客について　野田　順平
地域交通体系と住民行動　宮本　英俊
——滋賀県甲賀郡を例に——
兵庫県三田市における住宅地域構造の展開
山口　亮一
大都市圏周辺部における都市化の動向　和田　卓也
——近鉄奈良沿線地域を事例として——
倉敷市における観光地域の形成と発展　黒石　剛
——倉敷市倉敷地区を事例にして——
京都市域の商業再編を考える　尾崎　純
——スーパーチェーンの出店動向を中心に——
大学生の日常活動と購買行動に関する考察
——滋賀県草津市を例として——　福島　康之
生野区コリアタウン構想を巡る地域社会と民族
関係　松田　慈弘
都市内部におけるクールアイランド現象　萩尾　嘉弘
——京都市右京区妙心寺を事例として——
高速交通体系の整備がもたらす地域への影響
——九州地方を例に——　坂本　孝幸
容器リサイクルの現状と考察　吉原　始
——神奈川県横浜市を例に——
大都市郊外居住地における高齢化にむけての住民
意識　井上　由利
——横浜市北西部霧が丘地区を事例に——
大型複合商業施設の立地に伴う商店街の変容
井本　涼子
——福岡市博多区の上川端商店街を事例として——
外部・内部条件から見るコンビニエンスチェーン
の立地特性に関する一考察　上田　正人
——兵庫県淡路島を事例として——
北海道中富良野町における環境保全型稲作の地域
的展開　遠藤　健介
溜池卓越地域における集水・配水パターンの変化
太田　和明
～兵庫県稲美町と大阪府泉佐野市の比較を通して～
福岡市湾岸地域における居住者特性　岡本　亮
——百道浜・愛宕浜・西新地区を中心に——
東京大都市圏における通勤流動と郊外核の変容
木川　慎介
寺社奉納絵馬からみる水害の地域性　北　利史
都心～周辺地域における民間分譲高層住宅の立地
特性　北浦　雅生
バブル経済期以降における中高層建造物の立地
変容　清水　友哉
——奈良県橿原市を事例として——
愛知県豊川市における小学校区内の住民組織への
参加形態　蔵地　孝昭
——町内会との関連において——

一一四

第二次世界大戦前における女工斡旋業の成立シス
テム　斉藤　圭介
——新潟県栃尾郷を例にして——
日本における都市群システムの動向　新保　昌史
——都市次元の時系列比較——
SD法による住民の河川イメージ　坪井　直央
——高野川・賀茂川を比較して——
新しい繁華街の形成にみる空間と文化の相互作用
平松　有吾
——裏原宿・大阪堀江・京都御幸町を事例として——
都市中心部における廃校小学校の跡地活用に関す
る一考察　松岡　万里
——京都市を事例として——
びわこ空港整備による効果分析とその問題点
松川　晃彦
京都市における書店の店舗特性と立地変動
宮本　洋一
——1980年から2002年を事例として——
本四架橋と地域経済　矢野　達也
～国土計画と地域の独自の経済政策～
就業女性の日常行動　松井　真一
——不規則勤務女性の空間行動と時間配分を中心に——
一戸建住宅の分布と大型小売店舗の立地の関係
～岐阜県可児市を例として～　佐藤　祐規
京都市西京区における住宅地域形成過程の研究
磯部　享志
兵庫県における有機農業の波及　伊藤麻咲美
——多核的イノベーションの空間的核散事例——

日雇い労働者の高齢化問題・就労自立と福祉自立
～あいりん地区を中心に～　真鍋　剛治
神戸市都心部における空間変容　門脇　真也
名古屋商人の歴史　山下　悠哉
～近世商人からの遺言～
都市化に伴う茶業地宇治の変化　岡崎　英遠

人文総合科学インスティテュート
（人間と情報）

イメージによる感情想起についての研究　石野　剛
消費行動における音楽（BGM）の効果　伊東　孝洋
顔の印象と性格の関係性　伊藤　康恵
アクションスリップにおける質問紙と実験操作の関係について　岡　千晶
錯視図形タイヤについての考察　加賀山　肇
青年女性における化粧行動の心理的効果
――化粧度別にみるその自己効用と印象・評価――　小林　慶子
個人の協力行動に対する匿名集団の影響
～インターネットにおける信頼行動～　小林　舞美
一般女子大学生におけるパーソナリティ特性が身体イメージの歪みおよびダイエット行動に与える影響　篠永　恵子
変化盲に関する実験心理学的研究　杉島　正貴
創造活動における検討方略の影響　滝本　嘉子
顔面表情の表出と認知に関する実験的研究　二塚　亜実
ピクトグラムが表す情報を決定づける要因の検討　宮川　慎哉
顔文字の使用が非対面コミュニケーションにおける対人印象判断に及ぼす影響について　森　絹枝
交通・貿易にみるオランダの精神　望月　大輔
ベンハムのコマについての研究　山木　岳
動画ショットを用いたクレショフ効果の検証　山田　美紀
自尊心と作り笑い頻度の関係　佐々木　綾
集合体嫌悪の視覚心理学からの検証　野津　雄介
対人印象における背景の効果について　寺升　文哉
情報の精緻化が記憶成績に及ぼす影響　冨田　仁視
自己中心的な子どもの集団欲求　三嶋　拓
文化間における笑わせ方の違い　南野　孝明
～日本と英国のコント構成の違いについて～
ピアノの音の組み合わせが人の認知に与える影響　百瀬　彰彦

人文総合科学インスティテュート
（言語と文化）

画家フィンセント・ファン・ゴッホについて　池田　佳代
民俗芸能的なるものを巡る諸相　石榑　昌也
～秩父屋台囃子を事例にして～
華僑・華人アイデンティティの根底にあるもの
――彼らの社会に欠かせないものとしての食文化――　石黒　紘子
ドイツの移民の現状・課題・将来　岡田　徹也
「京都らしさ」の町並み保存　小島理恵子
ヨーロッパにおける日本文化の遍歴　金子　まみ
ヤン・シュヴァンクマイエル
――アニメの魔術師――　岸本江里子
子ども時代の遊びの重要性　木下香緒里
～子どもの社会性の発達面から～
わが国の学校給食の諸問題　國松　郁子
黒死病流行期における鞭打ち苦行運動について　小松亜紀子
「楽園」というモチーフの使われ方にいて　坂口　絵美
国内における日本語教育のあり方について　澤西　文
ガウディの主張　嶋田ゆかり
日本の建築にみる「境界」の美学　高橋　佳子
――その空間融合の意識――
ゴシック大聖堂におけるステンドグラス
――シャルトル大聖堂のばら窓――　谷口　彩子
UKロック　丹下　仁
nouvelle vagueの残骸　寺阪　彩
ジョン・ケージ『4分33秒』（1952）における「沈黙」と「時間」　中尾恵理子
琉球紅型　中地　玲子
――その装飾における貴族性と民芸性――
戦後処理と負の遺産　新田　尚子
～日本とドイツの比較～
日本におけるイタリア料理についての考察　萩　智華子

イギリスのナショナル・トラスト　宮崎　雅子
『トパーズ』分析　百瀬　東
美術修復　吉村　法子
インテリアデザインの未来　是澤　斉
環境教育と開発教育との融合　上村　香
——新しいカリキュラム作りを目指して——
裸体表現　篠原あづ沙
——そこに秘められた聖と俗——
日中女子サッカーの軌跡と展望　石塚　千春
〜プロ重視の中国とアマチュア主体の日本〜
フランスにおけるカフェの歴史　山下　隆史

人文総合科学インスティテュート（人間と表現）

同人誌即売会　浅野裕喜子
——少女達の狂宴——
おもちゃ芳藤の遊び心　板宮真紗子
『おもちゃ絵』に見る江戸の子ども文化
ショスタコーヴィチとスターリニズム　大澤麻衣子
——粛清時代から第二次世界大戦にかけて——
大江健三郎『個人的な体験』論　菊池　宏充
張芸謀監督『紅夢』論　貴志　高之
ダンス・ミュージックの光と陰　北村　苑子
from トーキョー to ロンドン
『ピーナッツ』とアメリカ　木原映吏子
〜第9番目の芸術・コミック〜
ドストエフスキーの「混沌」　国本　哲平
——『カラマーゾフの兄弟』にみられる生
メアリー・ケリー『ポスト・パータム・ドキュメント』　清水ひとみ
——フェミニズム・アートにおけるブレヒト理論の展開——
広告ことば　靏井　美沙
〜広告は今、何をどう語るのか〜
かくれキリシタン——その信仰　中村麻理恵
〜描かれ遺された殉教者という名の神〜
ジブリを支えた近藤喜文　新田　靖明
消費される音楽　西村　淳
興福寺阿修羅像　西村　幸浩
模造としての仏像
映画「かけがえの前進」を制作して　羽原　裕輔
——精神病者の思いと現実——
ローマン・ロックウェル〈The Discovery〉（1956）　林　幸代
〜地方主義とアメリカ性〜
「切断された首」と「女」たち　早渕　公人
〜モローの『出現』を再考する〜
宗教的観点からみたゴッホの絵画　保科友紀子
『葉隠』への眼差し　松井　恭子
——山本常朝の御側的奉公論として——
市民社会とアートプロジェクト　松本　温子
「ミュージアム・シティ・福岡」の事例によりながら
日本における「アノニマス・デザイン」について　皆川　大輔
ストリート・カルチャー美学　宮地　大始
スケーターとヒップホップの同異性
ユーリ・ノルシュテイン監督『話の話』について　村永　理恵
——アニメーションが織りなす記憶のなかの世界——
秘めた性意識と発散された芸術　百足　宇矢
中国現代美術に見る個人と社会　森口　祥子
アキ・カウリスマキ作品の感情の表し方　山本　舞
——『マッチ工場の少女』から
三池崇史　山本　雅博
——ユーモアとバイオレンス、突き抜ける作家性——
イノセンスの在り処　川中　知佳
——ファッション写真家サラ・ムーンの内なる世界——
ミュシャ・スタイルの源泉　幸田　典子
〜装飾にみる永続性〜
明治期の「唱歌」導入と「蛍の光」　桜井　まみ
——日本人とスコットランド音楽——
ドイツ青年運動における同性愛　島雄　豊
ハンズ・ブリューアの言説をもとに
刺青・TATTO　河村　俊孝
——生きている芸術——
スキャット　佐藤佳奈子
——女性ジャズ・ヴォーカリストによる声の超越——
地域に根ざしたスポーツ文化　竹下　真吾
〜スポーツ文化、クラブ文化は人を育てる〜
チャイナドレスと中華世界　中村　友紀
服装の「中国性」にみる伝統と民族のかたち
笑いと人間　堀　希望
ショパン「マズルカ」考　笠井　紀江
——ポーランド民謡と民族精神——
球体の奏でる狂騒曲　重山　裕志

一一六

～フットボールにおける文化的ヘゲモニー～　浦　朋恵
ちんどん屋　伊藤　あい
第三のジェンダー
――神と人との媒介者――
ブルーノ・シュルツに見る「女中」と「神話」　田中　壮泰
着物の文様　多賀　暢子
――文様にみる日本人の美意識――

人文総合科学インスティテュート（アジアと現代）

中国がチベットを自国の領土と主張する正当性について　大口　響子
――元朝および清朝のチベットとの関係を考察する――
白粉化粧の変遷　大城　瑞季
イスラームにおける啓典と社会のかかわり
――クルアーン研究序説　小杉麻李亜
落語の国へようこそ　新　尚樹
持続可能な観光先進国ネパール　西脇　聡子
――「ネパール」からの脱却――
現代日本におけるボランティア活動の特質と市民参加　三浦　晶子
皇室報道　大石　智子
――お妃報道から考える――
プロレス技の研究　嶋　亮太
――必殺技からプロレスを考える――
パレスチナ　引口　真
――「自爆テロ」から読み解く――
「台湾原住民」というアイデンティティの起源を求めて　上村　紗恵
――「共同体」意識を手がかりに
瀋陽　拝　智久
グローバリゼーションの中で形成された都市
国家形成とメディア　渡邉佳央里
～台湾民主化

人文総合科学インスティテュート（文化と社会）

海上都市ヴェネツィア　浅井久美子
～都市と水との関係～
プログレッシヴロック　東　慎也
ブルースからの脱却
開発と国際協力　上野　紗智
～住民参加の視点から～
社会変革における民衆の力　上野　了
――〝シアトルの乱〟――
アイリッシュ・ナショナリズムにおける「タラ・ブローチ」とケルト復興　奥田よし子
観光におけるホストとゲストのベストな関係
――町づくりを通してみえること――　栗田　彩子
観光と宗教文化との関連について　小林実良子
国家なき人々の戦争論　斎藤　翔伍
～なぜ人は戦うのか　未開の戦士たちからワイルドギース達まで～
イギリスのコーヒー・ハウスと女性　鈴木　まい
ティム・バートン　黒葛原　剛
――心優しきはみだしものたちの世界――
太宰治『走れメロス』論　長瀧谷まゆか
アマルティア・センにおける人間理解と発展の理論　楢原　龍史
アニメーションと社会変化の関連性　萩原　亮平
映画「イージー・ライダー」とバイク人気の関係性について　長谷川展之
『星の王子さま』の孤独と現代人の孤独　渡辺　知佳
社会情勢から祭りの成因をさぐる　田中　勇志
私が見た沖縄　岡本　祐子
――その「伝統」「変容」「創造」をたどって
京都の町並みを考える　佐藤　文子
～歴史的景観の保存・再生～
ナンセンス絵本と空間　正垣　民
――長新太の開いた扉――
外見から生じるホームレスに対する偏見と差別　柴垣　大輔
「異文化」との共生に向けて　日比　芳彦
「やおい」のジェンダーとセクシュアリティ　安井　陽子
現代中国における経済変遷　田中　冠
――中国経済崩壊への考察と移り変わる社会主義経済――
人と自然のつきあい方　大羽　孝志